

平成28年度 施策評価シート

基本目標	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	110 歴史ある文化を伝えつつ、新たな文化を創造する
施策	112 郷土の伝統文化や文化財を大切に、将来に継承する
施策の目標	「すみだ」の伝統ある文化を区民が将来に継承し、さらに発展させ、文化財を大切に保護しています。

1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
「伝統文化が保護、継承されている」と思う区民の割合	%	65	-	-	-	-	65.7
「墨田区の歴史や文化をもっと学びたい」と思う区民の割合	%	78	-	-	-	-	70

2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
大江戸すみだ職人展の来場者数	人	3,444	41,962	36,384	33,286	11,892

3 目標と現状(実績)についての分析

指標の推移・施策の課題や問題点について記述

・北斎作品(浮世絵)は大変脆弱であり、文化財保存の観点からも長期の展示は不可能であることから、十分な資料数を確保することが重要である。展示の企画テーマによっては、他館などからの資料借用が必要となる場合もあるが、開館後の円滑な事業運営や運営経費圧縮のためにも、可能な限り自館の収蔵資料数を増やせるよう収集に努めていく。また、開設機運を高めるため、寄付キャンペーンを実施し、平成27年度の目標額を達成することができた。今後も継続し、美術館開設により多くの賛同を得られるよう努めていく。

・大江戸すみだ職人展については、平成24年度から、会場をソラマチ内の産業観光プラザ「すみだまち処」にしたことで、多くの来場者が続いていたが、平成27年度は1万2千人ほどに減少した。そのため、更なる集客を目指し、今後は事業の広報について更なる戦略を練る必要がある。

4 今後の施策の運営方針

施策の戦略的方向性(選択肢に を付ける)

- (1) 優先的に資源投入を図る。
- (2) 現状維持とする。
- (3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
- (4) 資源投入の縮小を図る。

【上記の判断理由】

「すみだ 北斎美術館」を区の文化創造や地域活性化につながる施設になるよう、資料の収集保存、展示、情報提供、教育普及の事業活動を通じて地域文化の継承と発展の場として運営するため、今後も計画的な資料収集と美術館及び北斎に関するPRを行っていく必要がある。

【今後の具体的な方針】

・「すみだ 北斎美術館」開設後の円滑な事業運営を見据えて引き続き資料収集や寄付キャンペーンを行うとともに、美術館開設に向け、全庁一丸となって取組み、ホームページなどを通じて国内外にPRしていく。また、「成長する美術館」を具現化するため、開館後も見据えた普及事業の展開など、多彩な分野との連携を図る。

・大江戸すみだ職人展については、リピーターや愛好者のみならず、いかに「通りすがりの人」に足を止めてもらえるか、実行委員会と協議・検討し、引き続き墨田の優れた伝統技能を区内外に発信していく。

事務事業名	すみだ北斎美術館整備事業		所管課・係	文化振興課 北斎美術館開設担当
施策	112	郷土の伝統文化や文化財を大切に、将来に継承する	連絡先	5608-6115
予算書名称	すみだ北斎美術館開設準備経費、北斎基金事業費、すみだ北斎美術館建設事業費		執行実績報告書ページ	58,61

1 事業の概要

墨田区基本計画(平成23年度12月改定)においてリーディングプロジェクトに位置づけ、地域文化の継承と発展の場として「すみだ 北斎美術館」を開設することとしており、そのための開設準備を進めている。	事業開始年度	平成18年度(平成元年度)
	終了予定年度	平成28年度

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
区民、児童・生徒(学校)、国内外からの観光客	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
“葛飾北斎”に関する情報の拠点となる「すみだ 北斎美術館」を速やかに開設し、調査研究に基づいた良質な展示及び教育普及等の事業	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
本区ゆかりの世界的に評価が高い芸術家“葛飾北斎”を誇りに思い、文化財を大切に保護している	状態にする。
目的を達成するための指標	
種類	指標名(指標の説明)
活動指標 (手段に対する指標)	(本事業は施設建設に係るものであるため、現段階で本シートに適合する指標の設定は困難である。)
成果指標 (目的に対する指標)	
	単位
	年度
	H25年度
	H26年度
	H27年度
	目標値
	実績値
	目標値
	実績値
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)	
美術館開館後の円滑な事業活動を見据えて、資料の収集について、今後も効果的に基金の活用を行い、適切に資料の管理・保管を行っていくとともに、展示制作等に関する進行管理と、管理運営の詳細な事項を決定する。また、11月22日にオープンする美術館をまち全体で盛り上げる機運を醸成するために、区民・事業者・区等が連携し、区内各所で様々なプロモーション活動やイベントを展開する。	

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	文化振興費	目	文化振興諸費、北斎館建設費
27年度歳出予算額	1,701,193	27年度歳出決算額	1,678,204	27年度執行率	98.6%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
	有	無	有	有		2,003,010
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
基本計画におけるリーディングプロジェクトとして、本区の文化・観光等の振興に大変有意義であると考えているため。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
本事業の施策目標達成のためには、資料の収集、保存、調査研究、展示などのソフト面の準備を積極的に行う必要がある。				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
効率的な執行を行っている。				
(4)現状と課題	すみだ北斎美術館開館後、安定的かつ円滑な事業運営を行うため、文化・観光分野等との連携を図るとともに、美術館の根幹となる資料の収集、保存、調査研究、展示などのソフト面の準備を着実に進めて行く必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	美術館開館(平成28年11月22日)に向けて、ハード・ソフト両面の準備を推進していく必要があるため。
今後の方向性 (見直しの視点)	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者との協働により、開館に向けてハード・ソフトともに滞りなく準備を着実に進めていく。 成長する美術館を具現化するため、官民あらゆる分野と連携した普及事業を展開し、気運の醸成を図る。 開館後、安定的かつ円滑な事業運営を行うため、引き続き資料収集や寄付キャンペーンを行う。 		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年第2・3・4回定例会、平成28年第1回定例会	
	要旨	<ul style="list-style-type: none"> すみだ北斎美術館の管理運営に関すること 指定管理者、館長等の人事に関すること 寄付キャンペーン及び寄付金額、返礼品に関すること 北斎基金の活用に関すること 	

事務事業名	大江戸すみだ職人展事業		所管課・係	文化振興課
施策	112	郷土の伝統文化や文化財を大切に、将来に継承する	連絡先	03-5608-6180
予算書名称	大江戸すみだ職人展開催経費		執行実績報告書ページ	58

1 事業の概要

当事業は、区主催で行っていた「匠の競演」を平成20年から実行委員会方式で事業を拡充し、実施している。 【主な足跡】 第1回(平成20年度) 平成20年11月29日～12月2日(4日間:江戸東京博物館) 第4回(平成23年度) 平成24年3月24日～3月28日(4日間:すみだリバーサイドホール) 第8回(平成27年度) 平成28年3月4日～3月16日(13日間:産業観光プラザ「すみだ まち処」) 第8回は、第5回から会場を産業観光プラザ「すみだ まち処」としたことにより、区内・近隣区の方々のみならず、スカイツリー観光客にもすみだの職人文化を紹介する良い機会となった。	事業開始年度	平成20年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
都区民	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
区内の伝統手工芸職人達の製作実演を披露する大江戸すみだ職人展	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
本区の伝統工芸分野における優れた技術・技能を区内外に発信し、これによって市場における作品の付加価値が高められ、伝統文化が継承されている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	チラシ折込戸数	戸	目標値	40,000	100,000	35,000
			実績値	109,000	33,200	31,850
成果指標 (目的に対する指標)	来場者数	人	目標値	42,000	40,000	40,000
			実績値	36,384	33,286	11,892
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
近年、会場を「すみだまち処」に移したことから、毎年3～4万人の来場者を得ていたが、27年度は1万2千人ほどに減少した。そのため、更なる集客を目指し、今後は事業の広報について更なる戦略を練る必要がある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	文化振興費	目	文化振興諸費
27年度歳出予算額	1,000	27年度歳出決算額	949	27年度執行率	94.9%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
	無	無	無	有		1,000
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの	大江戸すみだ職人展開催経費					
27年度実績額	949	28年度予算額	1,000	対象	大江戸すみだ職人展実行委員会	
開始年度	平成20年度	根拠法令	大江戸すみだ職人展実行委員会補助金交付要綱			
算定基準	単年度補助			補助率	大江戸すみだ職人展開催経費の予算補助	

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
職人による実演や体験型ワークショップを通じて、区内外の人に、墨田の伝統工芸を身近に接する機会を提供することにより、その伝統の継承に資することができる。				
(2)事業の有効性	評価結果	低い	前年度評価	どちらかといえば有効
会場である「すみだまち処」の来場者減に伴い、本事業の来場者実績も年々下がっている。				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
産業経済課による「パルティーレ」、生涯学習課による「伝統工芸保存会」等の類似事業との差別化(または逆に統合)について、もっと積極的に検討すべきである。				
(4)現状と課題	リピーターや愛好者のみならず、いかに「通りすがりの人」に足を止めてもらえるか、展示方法や配置等にさらなる工夫を凝らす必要である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	必要性はあるものの成果を上げられていないため、会場や内容、周知方法等を見直す必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	「伝統工芸を通じて‘COOL JAPAN’を体感できる場」としてもっと外国人を呼び込む工夫、北斎美術館開館に伴うコラボレーション等、類似事業との差別化について、実行委員会と協議・検討していく。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	無
	要旨	無